

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立中之町小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	52.1	51.9	48.3	51.9	51.05
	本年度結果 偏差値平均	50	53.4	52.1	49.8	51.4	51.34
算数	前年度結果 偏差値平均	/	50	51.4	50.6	52.1	51.03
	本年度結果 偏差値平均	46.9	54.5	51.8	53.8	55.2	52.44
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	50.2	54.1	52.15
	本年度結果 偏差値平均	/	/	51.6	49.8	51.1	50.83
全体	前年度結果 偏差値平均	/	51	51.6	49.7	52.7	51.25
	本年度結果 偏差値平均	/	54	51.8	51.1	52.6	52.38

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	64 (95.5)	62 (96.8)
本年度結果 (対県比)	72 (104.3)	71 (110.9)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●2年「文章を読み感想などを伝え合う」41.7%、3年「話題を決め、伝える内容を選ぶこと」71.4%、文や文章を正しく書くこと43.7%、「目的に応じて工夫して書く」31.8%、「情報を選び構成を考えて書く」34.2%など文章の読み取り、読み取った内容に応じて文章を書くことに課題がある。</p> <p>●3年「時間の単位」82.1%、2年「絵や図を用いた数量の表現」56.9%など図形領域、時刻の問題などに課題がある。</p> <p>●4年「天気と気温・雨水と地面」41.3%、6年「振り子の運動とそのきまり」60.4%に課題が見られる。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>算数科</p> <p>●テープを切ることができる図形から角の大きさについて考える問題の意味が理解できていない。正三角形の意味や性質について問われていることが理解できていない。(31.3%)</p> <p>●三角形の面積について、大小関係を判断できていない。高さが同じ三角形で、底辺と面積の関係をもとに、面積の大小関係を判断した理由を説明する問題の記述ができていない。(37.6%)</p> <p>●(2位数)÷(1位数)の筆算において図を基に各段階の商の意味を理解できていない。(50.0%)</p> <p>国語科</p> <p>●図表やグラフなどを用いて自分の考えを書き表す問題で、問題点や解決方法を工夫して書くことができていない。(36.4%)</p> <p>●インタビューの様子が書かれている文章を読んで、話し手が何を伝えようとしているか内容を理解したり、質問をした理由を捉えたりすることができていない。(66.7%)</p>
---	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭で「問いの解決」を意識した授業づくりを行う。</p> <p>○全教諭がICTを活用した個に適した授業づくりを行う。</p> <p>○全学級の授業において、導入での問題提示や必要感のある課題提示を工夫する。</p> <p>○全学級の授業において、児童の達成感を感じさせる場面を設定する。</p>	<p>①全体研修による目指す子供たちの姿(資質・能力が発揮された姿)の設定と共有により、日々の授業を学年部で見合い意見交流することで授業力の向上を目指す。(相互授業観察)</p> <p>②授業研究及び協議会による目指す授業を共有し、「問い」から「まとめ・振り返り」までの授業展開を改善する(課題とまとめの整合性はどうか?、45分内に適用題と振り返りまで実施し児童の理解度を評価できたか?)</p> <p>③チャレンジタイムの充実(内容はNRT及び全国学力・学習状況調査の分析結果に基づく苦手分野から抽出)</p> <p>④1月に標準学力調査を実施し、課題分析のもと指導の不十分な分野を明らかにする。それをもとに、3月に改善した授業(教え直し)を行う。(国・算・理)</p> <p>⑤理科の授業改善とともに学習内容を定着させる。(専科教諭と担任との連携を行い、補充問題等に定期的に取り組ませる。)</p> <p>⑥ICTの実践交流及び校内研修を実施する。(クラスルーム上での交流も含む)</p>	<p>①毎月1回以上(授業研究・相互授業観察月1回以上)</p> <p>②年間全員1回授業実施</p> <p>毎月アンケート実施</p> <p>③週に3回(標準学力テストを参考に問題作成)</p> <p>単元末テストから苦手な分野の分析・教え直し→再テスト</p> <p>④11月初めにテスト(標準学力)実施→課題分析→授業改善による教え直し→再テスト</p> <p>⑤単元末ごと</p> <p>⑥月1回以上</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国得点+1以上)</p> <p>・知識・技能に関わる単元末テストの得点率が80%以上の児童の割合(全学級80%以上)</p> <p>・思考・判断・表現に関わる単元末テストの得点率が80%以上の児童の割合(全学級80%以上)</p> <p>・授業者アンケート実施</p> <p>(肯定的回答が80%以上)</p> <p>・標準学力調査(全学年平均以上)</p> <p>・「クロームブック活用推進プロジェクト」の達成率90%以上</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○全学級において、学習ルール、環境整備を徹底できるようにする。</p> <p>○全学級において、一人一人の役割を明確にし、居場所を実感できる場の設定や掲示を工夫する。</p> <p>○全学級において、二次支援や三次支援にいる児童への手立てや学級での取組を交流する。</p> <p>○全学級で学校行事・児童会行事において目標を決めて取り組む。</p>	<p>①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案</p> <p>②学校経営会議において各学級実態と改善計画の共有</p> <p>③暮会で長期欠席児童や学級の問題行動等についての情報共有</p> <p>④全体研修における改善計画の実施についての交流</p> <p>⑤学級づくりに関わる校内研修の実施</p> <p>⑥児童会主体の取組の充実</p> <p>⑦学校行事・児童会行事において、目標達成のために手立てを設定し、頑張りを認める場の設定</p>	<p>①6月</p> <p>②7月</p> <p>③週1回</p> <p>④8月</p> <p>⑤月1回</p> <p>⑥年間</p> <p>⑦月1回以上</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上)</p> <p>・Q-U2回目の一次支援の数値(全学級で70%以上)</p> <p>・児童会による学校行事に対する振り返り(全学級で肯定的評価90%)</p>